

中島みゆきの名曲「糸」に寄せて

平成 26 年 3 月 29 日 前塚嘉一

あの中島みゆき作詞・作曲のもう名曲といわれるようになった「糸」を男声二部合唱で練習している。この曲が紹介された時、一瞬「えっ」と驚く。これまでなんだか聴いては来たが、次に「これを合唱で?」と。そして「ああ、いいな」である。時々、くちずさんでは来たが改めて、この歌詞全部を読んでみる。いい歌詞である。中島みゆきには、「時代」「地上の星」をはじめとして、人生の応援歌というべき歌が多くあり、それぞれの時に、聴き私も元気を貰ってきた。たしか「バースデイ」だったか、高校の教科書にも採用されているとか。

ともあれ、団のみなさんとこの曲を歌い、練習できることは楽しいことである。味わい深い歌詞だと思う。最後の「仕合わせ」は巡り合わせという意味であり、幸せではない。幸せを呼ぶのは一人ひとりの決断と勇気である、なんて考えてしまう。いずれにしても歌詞をそれぞれがこれまでの人生経験から味わい、表現していけばいいのだろう。先生の助言を得ながら。

ちなみにわが親戚の男(私より4歳下・大学の経済学の教員)は中島みゆきにはまり、北海道にある中島みゆきの生家を訪れたり、「夜会」のコンサートに行ったり、ついには『中島みゆき論』の本まで出版した。それだけ彼女の歌は多くの人の心に入り込んでくるものがある。

と、ということで 今回、私たちも、中島みゆきの世界に少し入ってみようではありませんか。